# 第1章 各市町の現状と課題(案)

# 1. 各市町の概要

# 1-1 位置と地勢

本圏域は、岐阜県の南部、濃尾平野の北部に位置し、南は木曽川を隔てて愛知県一宮市、 江南市、北部と東部は、標高 200~300 メートルの山を境にして関市、加茂郡坂祝町、西は 岐阜市、南西部は羽島郡笠松町、岐南町に隣接し、総面積は 87.77 k m<sup>2</sup>、人口は約 14.2 万 人です。

各務原市は、標高30~60mの各務原台地、12~20mの台地周辺平野、200~300mの北および東部丘陵地からなり、東西に長い市街地を形成し、その周辺を田園地帯がつつむという理想的な都市構造を有しています。一方、川島町は、大河木曽川とそれをつなぐ二本の支流に囲まれた平坦な小さな町で、都市近郊の割には自然に恵まれて東海地方でも有数の野鳥の楽園として知られています。

交通面では、東海北陸自動車道の岐阜各務原ICのほか一宮木曽川ICに近く、国道21号、JR高山本線および名鉄各務原線が東西に走り、主要地方道川島三輪線が南北を縦断して基幹交通網を形成しています。

本圏域は、航空自衛隊 岐阜基地に関連した航空機や自動車産業、織物業や撚糸業などの 繊維産業、薬品製造業などを中心に発展してきました。近年では「テクノプラザ」「(財) 岐阜県国際バイオ研究所」「自然共生研究センター」「河川環境楽園」「岐阜県科学技術振興 センター」など、国や県の研究・交流拠点となる施設が整備され、ロボット・IT・バイ オ・エコロジーをキーワードとした産業の高度化・情報化や産学官の連携を推進していま す。



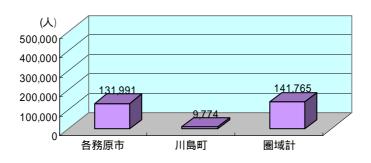
図 圏域周辺図

# 1-2 人口

## 1-2-1 総人口

本圏域の平成 12 年における人口は約 14.2 万人で、県全体の約 6.7%を占めています。 昭和 60 年の人口を 1.0 とした人口の伸び率をみると、圏域全体では平成 12 年度において 1.07 倍であり、県全体の 1.04 倍を僅かに上回っているものの、人口増は停滞傾向を示しています。

人口の伸び率を市町別にみると、平成 12 年において各務原市が 1.06 倍であるのに対し、 川島町は 1.20 倍となっており、比較的高い伸び率を示しています。



資料:国勢調査

図 構成市町人口(平成 12年)

#### 表 構成市町の人口推移

単位:人

				구쓰기
	S60	H2	H7	H12
各務原市	124,464	129,680	131,955	131,991
川島町	8,169	8,584	9,100	9,774
(圏域計)	132,633	138,264	141,055	141,765
岐阜県	2,028,536	2,066,569	2,100,315	2,107,700

資料:国勢調査



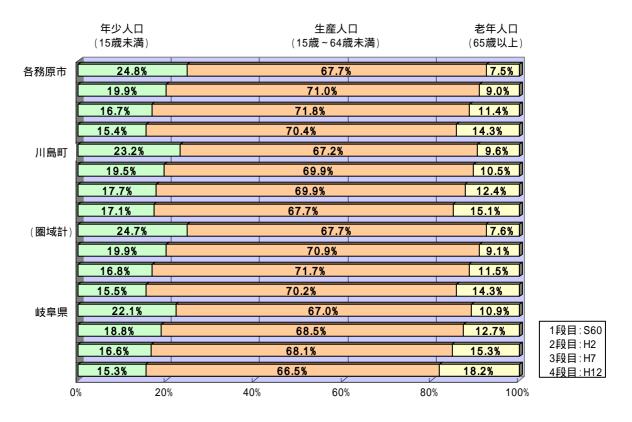
資料:国勢調査

図 人口の伸び率比較

#### 1-2-2 年齡別人口

本圏域の年齢別人口の割合をみると、平成 12 年の年少人口割合 15.5%、生産人口割合 70.2%、老年人口割合 14.3%となっており、県全体の人口割合に比べて老年人口割合が約 4 ポイント低くなっています。しかし、経年変化をみると、老年人口割合の伸びは県全体とほぼ同様の傾向を示し、年少人口割合については県全体に比して減少率が高くなっており、少子高齢化が年々進行していることが確認できます。

市町別にみると、昭和60年には、各務原市に比して川島町の年少人口割合は低く、老年 人口割合は高くなっていましたが、平成7年以降では、川島町の年少人口割合の方が高く なっています。



資料:国勢調査

図 構成市町の年齢階層別人口構成推移

# 1-3 産業

#### 1-3-1 産業構造

本圏域の平成 12 年における就業人口は約7.3万人で、県全体の約6.7%を占めています。 本圏域の平成 12 年における産業別就業人口の構成は、第1次産業1.9%、第2次産業39.0%、第3次産業59.0%であり、県全体とほぼ同様の人口構成となっています。また、 経年変化をみると、第3次産業就業人口の伸びが高く、第1次・第2次産業の衰退傾向が うかがえます。

市町別にみると、各務原市が県全体とほぼ同様の経年変化を示すのに対し、川島町では第2次産業の就業割合が高く、昭和60年には約65%を占めています。しかし、平成12年には約52%まで減少しており、地場産業である繊維産業の衰退がうかがえます。また、同町では、第1次産業の就業人口割合が0.2~0.6%と低い水準で推移しているものの、増加傾向にあります。

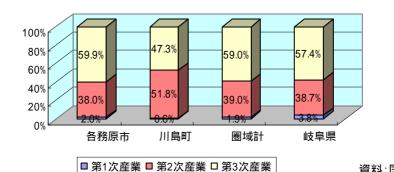


図 構成市町村の産業別就業人口構成

資料:国勢調査

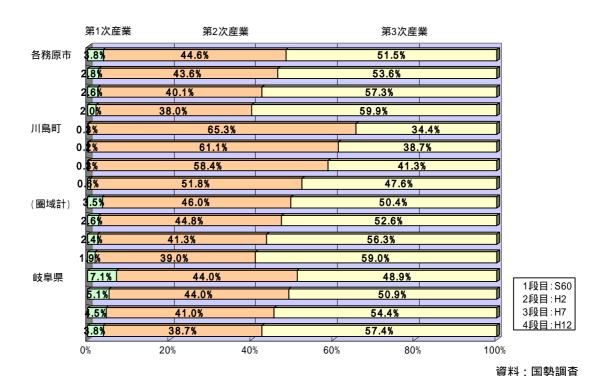


図 構成市町の産業別就業人口構成推移

#### 1-3-2 商業

## (1) 商店数

本圏域の平成14年における商店数は約1.4千店で、県全体の約4.6%を占めています。 平成3年の商店数を1.0とした本圏域の伸び率をみると、県全体と同様の減少傾向を示 しています。

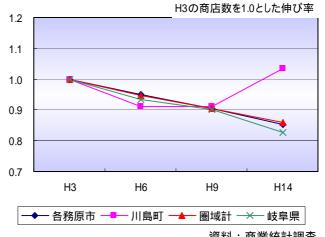
市町別にみると、各務原市は県全体と同様の傾向を示すのに対し、川島町は平成14年に 増加傾向に転じており、川島町では平成14年の商店数が、平成3年度を上回っています。

表 構成市町の商店数推移

単位· 庄

				半世 占
	H3	H6	H9	H14
各務原市	1,599	1,517	1,444	1,364
川島町	56	51	51	58
圏域計	1,655	1,568	1,495	1,422
岐阜県	37,346	34,904	33,615	30,909

資料 商業統計調査



資料:商業統計調查

図 商店数の伸び率比較

## (2) 従業者数

本圏域の平成14年における商業従業者数は約1万人で、県全体の約5.4%を占めていま

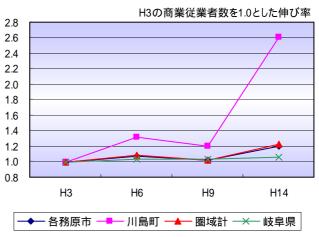
平成3年の商業従業者数を1.0とした本圏域の伸び率をみると、平成9年までは県全体 と同様の横ばい傾向を示しますが、平成14年には比較的大きな増加傾向を示しています。 市町別にみると、各務原市が県全体とほぼ同様の傾向を示すのに対し、川島町では平成 14年の伸び率が極めて高く2.61倍となっています。

表 構成市町の商業従業者数推移

単位:人

	H3	H6	H9	H14
各務原市	8,161	8,750	8,334	9,751
川島町	190	249	229	496
圏域計	8,351	8,999	8,563	10,247
岐阜県	179,844	185,928	184,750	191,204

資料:商業統計調査



資料:商業統計調査

図 商業従業者数の伸び率比較

#### (3)年間商品販売額

本圏域の平成 14 年における年間商品販売額は約 2,574 億円で、県全体の約 4.9%を占めています。

平成3年の年間商品販売額を1.0とした本圏域の伸び率をみると、平成14年において1.04倍となっており、県全体の0.80倍に比して高い数値を示しています。経年変化をみると、県全体が平成9年までほぼ横ばいで推移した後、減少に転じているのに対し、本圏域は平成9年まで横ばいで推移し、平成14年に増加に転じています。

本圏域の平成14年における従業者1人あたり年間商品販売額は約2.5千万円で、県全体(約2.7千万円)に比して約93%となっています。また、経年変化をみると、平成3年には県全体の約0.82倍となっていますが、その差は年々減少しています。

市町別にみると、年間販売額の伸び率については、各務原市が微増傾向(平成14年:1.04倍)を示すのに対し、川島町は平成9年に著しい増加をした後、平成14年に大幅な減少に転じ、平成14年の伸び率は0.72倍となっています。従業者1人あたり年間商品販売額については、平成14年における県全体の販売額(約2.7千万円)に対する各務原市の販売額(約2.6千万円)の割合が約96%、川島町の販売額(約0.7千万円)の割合が約26%となっています。

表 構成市町の年間商品販売額推移

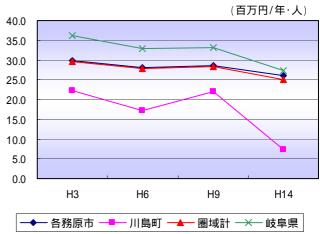
単位∶百万円

	H3	H6	H9	H14
各務原市	243,316	245,246	238,729	253,805
川島町	4,253	4,279	5,038	3,632
圏域計	247,569	249,525	243,767	257,437
岐阜県	6,515,201	6,100,767	6,143,871	5,234,017

資料:商業統計調査



図 年間商品販売額の伸び率推移



資料:商業統計調査 図 従業者1人あたり年間商品販売額の推移

## 1-3-3 工業

## (1) 事業所数

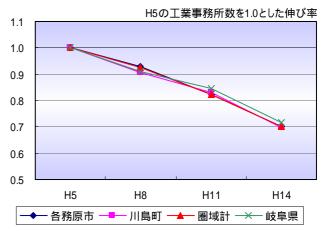
本圏域の平成 14年における事業所数は約 1.3千事業所で、県全体の約 7.1%を占めています。平成 5年の事業所数を 1.0 とした本圏域の伸び率をみると、平成 14年において 0.70倍であり、県全体の 0.72倍を僅かに下回っています。経年変化をみると、県全体、圏域、圏域の構成市町とも、平成 14年にかけて急激に減少しています。

表 構成市町の事業所数推移

単位:事業所

			<u>+ 12</u>	レナスハ
	H5	H8	H11	H14
各務原市	1,436	1,333	1,182	1,006
川島町	383	347	318	267
圏域計	1,819	1,680	1,500	1,273
岐阜県	25,150	22,880	21,292	18,062

資料:工業統計調查



資料:工業統計調査

図 事業所数の伸び率比較

## (2) 従業者数

本圏域の平成 14年における工業従業者数は約 1.9万人で、県全体の約 8.7%を占めています。平成 5年の工業従業者数を 1.0 とした本圏域の伸び率をみると、平成 14年において 0.89 倍であり、県全体の 0.80 倍を上回っています。経年変化をみると、県全体が平成 14年にかけて減少傾向であるのに対し、本圏域は、平成 11年まで減少した後、平成 14年には微増傾向に転じています。

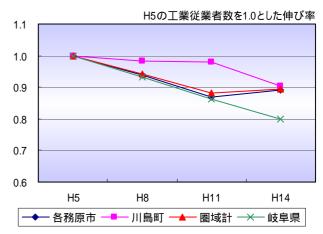
市町別にみると、各務原市が平成 14 年には微増傾向に転じているのに対し、川島町では 平成 11 年まで緩やかな減少をした後、平成 14 年に急激に減少しており、平成 14 年の伸び 率は 0.90 倍とほぼ本圏域と同じになっています。

表 構成市町の従業者数推移

単位:人

				平世:人
	H5	H8	H11	H14
各務原市	19,783	18,579	17,220	17,643
川島町	1,914	1,879	1,878	1,729
圏域計	21,697	20,458	19,098	19,372
岐阜県	277,400	258,281	239,613	222,042

資料:工業統計調査



資料:工業統計調査

図 従業者数の伸び率比較

## (3)年間製造品出荷額等

本圏域の平成 14 年における年間製造品出荷額等は約 5,218 億円で、県全体の約 10.9% を占めています。

平成5年の年間製造品出荷額等を1.0とした本圏域の伸び率をみると、平成14年において0.88倍となっており、県全体の0.87倍に比して低い数値を示しています。経年変化をみると、県全体は平成14年にかけて減少傾向にあるのに対し、本圏域は平成11年まで減少傾向を示した後、平成14年には増加傾向に転じています。

本圏域の平成14年における従業者1人あたり年間製造品出荷額等は約2.7千万円で、県全体(約2.2千万円)の約1.20倍となっています。経年変化をみると、平成5年における本圏域の従業者1人あたり年間製造品出荷額等は、県全体の約1.38倍であり、その差は年々減少しています。

市町別にみると、年間製造品出荷額等の伸び率については、各務原市が平成 11 年まで減少傾向を示すのに対し、川島町は平成 8 年に増加傾向を示した後、平成 11 年には減少傾向を示しています。両市町とも平成 14 年に増加傾向に転じ、平成 14 年における伸び率は、各務原市が 0.86 倍、川島町が 0.97 倍となっています。従業者 1 人あたり年間製造品出荷額等については、各務原市が約 2.3 千万円前後でほぼ横ばいに推移しているのに対し、川島町は平成 11 年に減少傾向を示すものの、平成 14 年には増加に転じ、約 6.8 千万円と県全体(約 2.2 千万円)、各務原市(約 2.3 千万円)に比して高い数値を示しています。

表 構成市町の年間製造品出荷額等推移

単位:百万円

	H5	H8	H11	H14
各務原市	472,661	417,416	384,136	404,340
川島町	121,327	128,917	116,787	117,450
圏域計	593,988	546,333	500,923	521,790
岐阜県	5,510,393	5,399,140	4,972,340	4,797,063

資料:工業統計調査

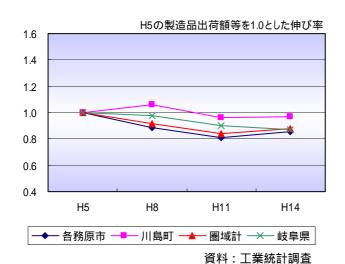


図 年間製造品出荷額等の伸び率推移

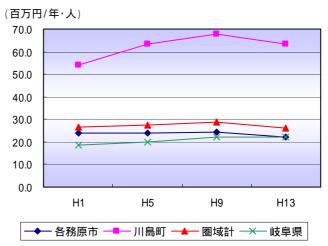


図 従業者1人あたり年間製造品出荷額等の推移

資料:工業統計調査

8

#### 1-3-4 農業

# (1) 農家数

平成 12 年における本圏域の農家数は約 2.5 千戸で、県全体の約 2.9%を占めています。 昭和 60 年の農家数を 1.0 とした伸び率をみると、本圏域は、平成 12 年において 0.72 倍であり、県全体の 0.75 倍とほぼ同じ伸び率を示しています。また、経年変化についても同じ傾向で減少し続けています。

市町別にみると、各務原市が県全体と同じ水準で推移しているのに対し、川島町の減少傾向が強く、平成2年(78戸)には、昭和60年(150戸)の約半数まで減少しており、平成12年における伸び率は0.35倍となっています。

表 構成市町の農家数推移

単位∶戸 S60 Η2 務原市 3,277 2,858 2,586 2.406 川島町 3,427 2,936 2.657 2,459 112,848 99,394 91,435 84,764

資料:農業センサス

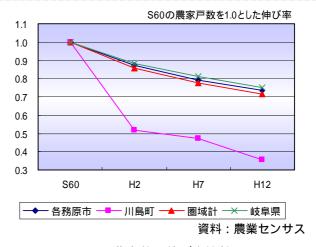


図 農家数の伸び率比較

#### (2) 農業粗生産額

平成 12 年における本圏域の農業粗生産額は約 34.2 億円で、県全体の約 2.7%を占めています。昭和 60 年の農業粗生産額を 1.0 とした伸び率をみると、本圏域は、平成 12 年において 0.64 倍であり、県全体の 0.73 倍に比して伸び率の減少幅が大きくなっています。

市町別にみると、各務原市が県全体と同様の減少傾向を示すのに対し、川島町は平成 2年の伸び率が 3.67 倍と著しく高く、その後減少に転じているものの平成 12年の伸び率は 2.71 倍を示しています。

表 構成市町の農業粗生産額推移

単位:百万円 S60 H2 H12 各務原市 5,100 3.992 3.299 5,260 川島町 45 165 141 5,305 5,265 3 421 173,615 166,090 149,886 127,508

資料:岐阜県農林水産統計年報



図 農業粗生産額の伸び率比較

# 1-4 観光資源

本圏域は、木曽川に代表される大小の河川や美濃山地の美しい山並みなど豊かな自然に 囲まれた地域であり、古くは承久の乱の舞台として登場し、また、日本最古の各務原飛行 場を中心にして、航空産業や自動車産業、繊維産業等を基幹産業として発展してきました。 このような、自然、歴史、産業等を背景として、本圏域には以下に示すような幾多の観 光資源があります。

## 各務原市

名 称	概 要
かかみがはら航空宇	国や民間各社で行った航空機開発の成果を後世に伝えると共に、日本の航空宇宙
宙博物館	技術開発の流れが分かる展示を行っています。
	また、本格的なシミュレータ(模擬体験装置)などを通じた、参加体験型のわかりやすく
	楽しい展示案内をしています。
各務原市歴史民俗資	各務原市歴史民俗資料館は、郷土の歴史、民俗、芸術、産業、自然科学等に関する
料館	資料を収集研究し、整理保管して展示したり、資料に関する調査研究の報告書、解説
	書等を作成して頒布したりする事業を行っています。
名勝木曽川	昭和6年に国の名勝地指定を受けた木曽川。大河のほとりに古城がみられるヨーロッ
飛騨木曽川国定公園	パのライン川の風景にたとえられるのは、つとに有名で日本ラインと呼ばれ親しまれて
	います。空と山と川の色が織りなす自然の美に、心和む思いがします。ここでは毎年8
	月 10 日に、日本ライン夏まつり納涼花火大会が開催されます。
おがせ池	桜舞い、水蓮が敷つめ、紅葉があたりを染め、雪と霧で水墨画の世界をかもしだす四
	季おりおりのおがせ池のたたずまいは、人の心をひきつけます。池は周囲約2キロ、池
	の中に浮かぶ社殿には、この池の守り神・八大龍王が祭ってあり、多くの人々の信仰を
	集めています。
県営各務原公園	子供たちが遊びながら交通知識や正しい交通マナーを覚えられるようにつくられた各
	務原公園。広大な芝生の広場、木製遊具設置の冒険広場をはじめ交通教室などの設
	備も整った抜群の環境です。
日本ライン うぬまの	飛騨木曽川国定公園と名勝木曽川を含む広さ66.25haには旧中山道が杉木立と共に
森	延び、緑豊かで野鳥も多い散策道、雄大なパノラマが楽しめる展望台などが整備された
	保健休養林です。またセンターハウス「やまびこ」には読書室「もりの本やさん」などがあ
	り緑のオアシスとして親しまれています。
航空祭	広大な航空自衛隊岐阜基地を一般に公開し、飛行機の展示、編隊飛行のデモンスト
	レーションもあり、見る者を飽きさせません。
日本ライン夏まつり	犬山城を望む木曽川河畔において、各務原、犬山両市の共催で行われる恒例の花
	火大会。スターマインをはじめ、木曽川を横断して流れ落ちる「日本ライン大瀑布」と名
	付けられた仕掛花火の迫力は圧巻です。

# 川島町

名 称	概 要
河川環境楽園	東海北陸自動車道・川島 PA の隣接地に誕生した環境共生型のテーマパークで、国営公園、県営公園などから構成されています。主な施設は、水中探検レストラン「フィッシュ・オン・チップス」、岐阜県の名産品を集めた「ギフベスト」、遊びながら川の自然を学べる「木曽川水園」「自然発見館」など。平成 16 年には、淡水魚の水族館と観覧車が整備される予定です。
内藤記念 〈すり博物館	医学や薬学に関する国内最大規模の資料館。収蔵資料は約5万点、そのうち特に資料価値の高いものを選んで展示してあります。また、付属薬用植物園では約600種類の薬草・薬木を育成し、一般に公開しています。